

課題解決特別事業実践紹介集

（浜田市まちづくり総合交付金事業）

平成 30 年度採択

地区	ページ	事業名	実施団体名
石見	1～2	みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業	みはし地域まちづくりネットワーク
	3	「助けて！」と言える関係をつくる事業 ～防災意識啓発および技能向上事業～	
美川	4	持続可能な美川に向けた子育て世帯定住促進事業	美川地区まちづくりネットワーク
国府	5	絶滅危惧植物の保全をつうじた地域コミュニティ の再生事業	久代地区まちづくり推進委員会
木田	6	木田美景観事業 / 木田魅力アップ事業	木田まち自治会
都川	7	菖蒲で勝負！農地整備保全事業	都川地区まちづくり推進委員会

令和元年度採択

地区	ページ	事業名	実施団体名
石見	8	輝きチーム結成事業	みはし地域まちづくりネットワーク
三隅	9	まちづくり活動で地域防災力の充実強化を目指す	三隅地区まちづくり推進協議会
井野	10	野山嶽環境・景観保全事業	まちづくり推進委員会 INO
	11	「学習アプローチ」による地域防災力強化事業 ～その時！命を守る行動をとるために～	

令和 2 年度採択

地区	ページ	事業名	実施団体名
今福	12	活動拠点環境整備事業（仮設テント整備）	今福地区まちづくり委員会
	13	活動拠点環境整備事業（照明器具の整備）	

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはしネット子ども部会

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名 みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業
2021年度 新入学保護者・児童交流会

事業費(予算額)： 135,000 円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 135,000 円)

P

事業の目的(解決を目指す課題)

三階小学校の新入生は複数の保育園・幼稚園から入学してくるため、親子共に顔見知り少なく、つながりが希薄である。そのため入学前から親同士気楽にコミュニケーションが取りにくく、不安感がある。

- ① 保護者同士が気楽にコミュニケーションが取れる関係を作ることで、孤立を防ぎ、安心して子育てできる環境を提供
- ② 新入学児童が学校生活を楽しみにできたり、地域とのつながりづくりのきっかけとする。

見込まれる成果

- ① 保護者の大半が参加し、連絡先を交換したり、入学への不安についてアドバイスをもらい、不安が軽減される。
- ② 新入学児童が小学生や地域住民と楽しく交流し、入学を楽しみにできたり、地域住民とのつながりができる。

D

事業の概要

- ① 三階小学校ミーティングルームで新入学の保護者同士の交流会を開催する。
【保護者交流会内容】浜田親子共育応援プログラム(HOOP)体験/みはしネット子ども部会、はまだっ子共育プロジェクト、まちの縁側の取組紹介/保護者同士の交流タイム(児童の様子を見ながら)
- ② 体育館で新入学児童の交流会を開催する。
【児童交流内容】運動遊びプログラム(リーベ)の体験/新6年生や地域ボランティアと交流

事前の動き

令和2年11月 交流会案内チラシの作成/学校説明会での交流会PRの方法を学校長に了解を得る。

運動遊びプログラム講師への依頼

就学時健診で保護者へ交流会のPR(予告チラシ配布)

令和3年1月 交流会の新6年生ボランティア募集/HOOPファシリテーターと打ち合わせ

2月 物品購入日で保護者に交流会チラシ出欠ハガキ配布/保育園、幼稚園に企画PR、声かけ依頼

当日

令和3年2月28日(日) 13:00~15:00 会場：三階小学校ミーティングルーム・体育館

参加人数：56名(児童兄弟と保護者43名/新6年生ボラ3名/体操講師・子ども部会・HOOPスタッフ10名)

工夫したこと：前回参加人数が入学予定の3分の1程度に留まったため、参加を促すため事前に所属幼保名をアンケートで聞き取り、幼保関係者に参加の声かけ依頼を郵送または直接お願いに回った。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

今回は学校、幼保の先生方の参加の声掛けのおかげで入学予定の半数以上の世帯が参加できました。HOOPには夫婦での参加や母親の参加が多い中、父親の参加も数名ありました。HOOP終了後は児童の活動の様子を見ながら、和やかに保護者同士交流していました。若干1名母親から離れられない児童がいたが、保護者同士の交流の機会は今後あまりないので、HOOP体験を優先してもらった。交流会終了後笑顔で帰る親子の姿を見て、楽しんでもらったのではないかと思います。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

○参加者を増やすための取組

- ・三階小学校の協力(就学時健診の学校紹介で交流会のPRと校長先生の声かけ依頼)
- ・幼稚園・保育園の協力(先生からの参加声かけ依頼)
- ・参加者増加に対応するスタッフの確保



運動遊び



HOOP

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはしネット子ども部会

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名 みはしネットがしかける 地域・学校・家庭の連携強化事業
三階小学校5年生の防災学習

事業費(予算額)： 225,000 円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 225,000 円)

P

事業の目的(解決を目指す課題)

- ① 次世代の地域を創生する人材育成のための地域・学校・家庭と多様主体が連携協働していくこと
- ② 三階小児童が地域の課題を知り、まちづくりを担う地域住民と出会う
- ③ 児童から地域へ発信・提言することで、地域も活力を得る

見込まれる成果

- ① みはし地域のまちづくりの取組と三階小学校の授業を結ぶ学習プログラムを学校と連携協働して開発する。
- ② 三階小児童が学習成果を地域へ発信し、地域住民に活力を与える。

D

事業の概要

内容：三階小学校5年生は理科の川の学習から水害について学習します。そこから自分たちの住むみはし地域の水害の歴史や防災についての取組を、地域で活動しているみはしネット防災部会から学ぶため、防災学習プログラムを学校と連携し作った。

学習プログラム：①みはし地域の水害の歴史 ②災害図上訓練(DIG) ③地域を回り、災害痕跡から学ぶ

事前の動き：令和2年8月17日 子ども部会、防災部会、三階小学校校長、担任、派遣社会教育主事、地域学校協働推進員と内容打合せ

授業日：令和2年9月28日 みはし地域の水害の歴史について防災部会 小川寛さんから講義を受ける。

令和2年10月6日 災害図上訓練(DIG)を防災部会、小川悦子さんと地域の方、保護者で行う。

令和2年10月13日 DIGをもとに防災部会からの説明を受けながら実際に地域を回り学ぶ。

令和2年11月21日 三階小学校学校公開日で5年生が防災学習で学んだことを発表。

振り返り：令和3年12月3日 防災学習の振り返りと今後に向けての検討事項を協議。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

事業の振り返りから児童の皆さんが多くの感想を書いてくれました。身近な地域で死者が出たほどの大きな災害が起きていたことに驚き、みはし地域は危険区域が多いことが分かったとありました。また早めの避難が大切で、避難場所を確認したいとの感想もありました。自分の身を守るためにできることを考え、この学びは授業参観で保護者の皆さんにも伝えることができました。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

子どもの学びを家庭(保護者)や地域の意識向上につなげるために、来年度は町内で防災活動を子どもと一緒に開催してもらえよう部会から町内会に働きかけ、そのための人材や経費の援助をするなどして協力していく。

みはし地域災害の歴史



災害図上訓練(DIG)



災害痕跡現地見学



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：みはしネット防災部会

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

「助けて！」と言える関係をつくる事業～防災意識啓発および技能向上事業～

事業費（予算額）： 158,962 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 158,962 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

防災知識の普及、他県の災害を他人事でなく自分事として考え、日頃から災害に備えていざという時のために役立ててもらうための事業

D

事業の概要

協力関係の定着化を図るため、毎年連続して実施する。

平成30年度に採択され令和2年度までの3か年事業として計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年度は事業を中止した。

（令和2年度は、神戸の「人と防災未来センター」による震災体験談の講演会を行う予定でした。）

なお、中止した内容は令和3年度以降に実施する予定である。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・事業の拡大、マンネリ化防止を防ぐため、部会員を増やす。
- ・避難訓練をみはし地域全体で行える体制をつくる。
- ・本番を想定した夜間訓練の実施。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：美川地区まちづくりネットワーク

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

持続可能な美川に向けた子育て世帯定住促進事業

事業費（予算額）： 500,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 500,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

日本全国で大きな問題となっている人口減少については、ここ美川においても例外でなく、小学校等の児童数減少、店舗の減少に対し、このまま何もせずにいると地域の衰退がさらに加速する。地域アンケート調査・分析結果等から人口増加対策を進め、他地域のモデルとなる取組を目指す。

D

事業の概要

美川人口増加対策会議において議論し、子育て世帯の定住及び活性化を地域事業の大きな目的とし、以下条件により子育て世帯移住者の募集を実施。

また、募集にあたっては有志のプロジェクトチームを立ち上げ、随時協議を行っている。

(1) 小学生以下の子供がいる世帯

(2) 平成30年10月1日以降、美川地域に転入される世帯

(3) 移住後、美川の地域づくりに積極的に関わることのできる世帯

・条件に合う世帯を募集、面接を経て対象世帯を決定する。対象世帯には、1ヵ月1万円程度の活動費を支給し、美川の諸会議等に出席していただく。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

(1) 目標世帯数の達成状況

(2) 移住された方を地域全体でどのようにフォローし、どのように関わってもらうかについて意識の共有、組織の方向性がしっかりと定まっていない

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

(1) ホームページや口コミ等を活用し、制度の周知を図って行く。

また、移住希望者へ紹介できる空家情報等の集約を図る必要がある。

(2) 移住世帯をサポートできる体制づくりが急務であり、そのためにも各関係者がこの事業を「自分ごと」と捉える必要がある。



ホームページ作成模様とホームページ



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：久代地区まちづくり推進委員会

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

絶滅危惧植物の保全をつうじた地域コミュニティの再生事業

事業費（予算額）： 398,700 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 398,700 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地区において代々守り続けていたハマボウフウが激減し、絶滅の恐れがあります。

ハマボウフウは、地域の老人ホームの名称になるほど、久代においては大切な資源であるため、ハマボウフウの保護保全活動及び久代浜の美化活動を行います。

D

事業の概要

- ・ 個体から種子を取り、育苗施設内にてポットにて播種作業、その後自生海岸に移植作業
- ・ 海岸周辺の環境美化活動

令和2年度が最終年でしたが、コロナ禍の為、十分な活動ができませんでした。

令和3年度は、環境美化活動及び種子取り作業を引き続き行います。

また、育成は種子採取後、直接、久代海岸に場所を変えて種まきを実施したいと考えています。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

・ 上記評価の理由

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組む

こと（評価を10に近づけるために）

継続事業として、新年度、取り組みを再開する。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：木田まち自治会

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

木田美景観 木田魅力アップ事業

事業費（予算額）：500,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：500,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

地域の空き家・耕作放棄地を住民が把握し、現状で放置した時を想定し、空き家の整理や耕作放棄地を整備、活用する取り組みを行う。また、防災の取り組みとして地域の防災マップを作成し、自主防災の意識を高める。

D

事業の概要

- ・耕作放棄地の活用を再度部会で検討。
- ・耕作放棄地の管理者の承諾を得られたところの草刈りなどの整備をし、ひまわり、あじさい、コスモスなどを植えた。
- ・ひまわりは種を収穫し「ひまわり油」の搾油が成功。
- ・これまでの取り組みをまとめた木田地区の防災マップを作成

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○	
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

元々は地域が考える課題として取り組んだが、1年目は住民への周知が弱く関わる人も少なかった。2年目にしつてやっと協力者が増えたように思う。3年目の今年度は住民のアイデアや意見も出るようになり、関心をもつ人も増えた。特に耕作放棄地活用は地域で活躍できる人を増やす事を目標とし、各々がやりがいを持てる事を大切に活動した。これまで行ってきた取り組みを次年度も継続することとし、楽しみながら意欲をもって取り組む人が増えた。

A

耕作放棄地の活用は、様々な人が携わりひまわりやコスモス、あじさいを植え、景観を良くするよう取り組んだ。ひまわりは「ひまわり油」の搾油にも成功し、形になったことから住民のやる気が一気に上昇。来年へ更なる目標ができた。

防災マップの作成は業者に依頼したがその内容は住民で考えDIGの体験なども行い、また公民館事業の「木田さんぽ♪」での危険箇所の確認もできた。今後は自主防災の取り組みにも繋げていき、住民の防災意識を高め、地域の力をつけたい。多世代が関わる、継続できる取り組みを今後も行っていく。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：都川地区まちづくり推進委員会

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

菖蒲で勝負！農地整備保全事業

事業費（予算額）： 476,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 476,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

高齢化が進み荒廃する耕作地が増加する今日、耕作地を菖蒲園に改造することにより、圃場の保全と景観対策に寄与でき、地区民の癒しの場となる。

D

事業の概要

2020年 4月	菖蒲園廻り草刈り	参加延べ人数	8名
2020年 6月	菖蒲園の手入れ	参加延べ人数	6名
2020年 7月	菖蒲園廻り草刈り	参加延べ人数	8名
2020年 8月	菖蒲苗へ肥料やり	参加延べ人数	5名
2020年 9月	菖蒲園廻り草刈り	参加延べ人数	8名
2020年 10月	菖蒲の茎切	参加延べ人数	8名
2020年 11月	菖蒲の株分け	参加延べ人数	12名
2021年 3月	菖蒲苗へ肥料やり	参加延べ人数	5名

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

1. 除草シートで草取りが軽減した
2. 圃場の景観が良くなった
3. 株分けが出来た（希望者へ来年配布）
4. 花が見事に咲いた

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組む

こと（評価を10に近づけるために）

1. 菖蒲園の拡大
2. 菖蒲祭りの開催
3. 苗株の配布
4. 若者の参加（大学生等）
5. 棚田まつり、縁側喫茶等と連携し観光スポットにする
6. イノシシ対策で圃場に電気柵が必要



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名: みはし地域まちづくりネットワーク

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

輝きチーム結成事業 2年目

事業費(予算額): 1,000,000 円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業: 1,000,000 円)

P

・事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

■目的: みはしネットの各部会の実働部隊の層がまだまだ薄いので、協力者を増やしていく事。
また、近隣住民同士が集まる機会がなくコミュニティが脆弱であること。

■見込まれる効果: みはしネットの各部会の事業への協力者が増え、その事業を通じて、地域住民同士のネットワークが強化され、新たなコミュニティが生まれてくる。

D

・事業の概要

みはし地域住民が過半の5人が集まって、みはし地域が住み良い地域になることに繋がる活動を年に複数回行う場合に、輝きチームとしてみはしネットに登録していただく。登録していただいた輝きチームには、活動費の支援や、活動の場の優先提供をみはしネットが行う。

当事業は、平成30年度に「社会参画型サロン事業」として実施した事業を拡充したものであり、現在8団体が登録済みである。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動したのは3団体のみで、新規の登録団体はありませんでした。

活動団体: リリカサロン・相生町2町内清掃会・みはし農園

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

			○						
--	--	--	---	--	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動ができなかった。新規の登録団体もなく残念な結果になったが、コロナの終息を願い徐々にでも活動を再開し、コミュニティ強化につなげたい。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

登録チームが増えると、いずれ、複数のチームによるコラボ企画や、各部会への提案事業を生まれてくると想定される。

様々な機会を活かして、地域住民への登録の呼びかけと、みはしネット事業への協力要請を進めていく予定である。

相生町2町内清掃会



リリカサロン



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：三隅地区まちづくり推進協議会

令和 2 年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

まちづくり活動で地域防災力の充実強化をめざす

事業費（予算額）： 321,000 円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 321,000 円）

P

事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

防災活動を通して

- 1 三隅地区まちづくり推進協議会のネットワークの強化
- 2 三隅地区まちづくり推進協議会の広報活動のスタート

D

事業の概要

「防災」を切り口として、先ずは、協議会を構成している団体に組織の意義や役割を確認し、災害時又は災害前後における当事者意識を成就させ、「防災でまちづくり」ではなく、「まちづくりに係ることが防災につながる」ことを意識付けたい。防災を考えることで「ネットワークを強化」し、「広報活動のスタート」とする。

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点により、事業を中止し、令和 3 年度に実施することとする。

○防災訓練時期 令和 3 年 6 月、令和 3 年 10 月

C

課題の解決度合（10 段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

・上記評価の理由

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を 10 に近づけるために）

- ・訓練を活かしたい。
- ・新型コロナ対策の 1 つとして、ICT を活かしたい。

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：まちづくり推進委員会 INO

[令和元年度採択分]

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

野山嶽 環境・景観保全事業

事業費(予算額)：397,850円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業：725,000円)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果 世界でも珍しい小範囲の死火山で、昔から作物栽培がおこなわれていた井野地区を全貌できる野山嶽は、中腹でひまわりやそば栽培が高齢者クラブによりおこなわれ訪問者も増えてきているが、山頂への登山道が荒廃し山頂での眺望をのぞみにくくなっており、山頂までを整備し景観を伝承していく。

D

事業の概要

- ・山頂への小道を整備し、野山岳の眺望を開き、世界でも珍しい小範囲の死火山であることを次世代に伝える景観をまもる。
- ・そばやひまわり栽培を行い、花を見に来る人も山頂まで楽しめる場所としていく。
- ・看板を設置し、野山岳の歴史などをいつでも知ることができるよう紹介する。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

										○
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

・上記評価の理由

以前より道幅も広く登りやすくなったが、コースが変わり、勾配の急なところが少し出来た。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

登山道を整備する面では、目的は達成されたように思う。

今後は、関わりを持ってくれる人が増えるよう周知活動に努め、維持管理を地域全体で取り組む仕組みを話し合っていきたい。



案内看板設置(協力：いのっ子クラブ)



登山道整備

事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：まちづくり推進委員会 INO

[令和元年度採択分]

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名「学習アプローチ」による地域防災力強化事業

～その時！命を守る行動をとるために～

事業費（予算額）：310,521円（まちづくり総合交付金課題解決特別事業：498,000円）

P

・事業の目的（解決を目指す課題）や見込まれる成果

- ① 地域防災力の強化～非常時に命を守る実効的な行動を自助・共助で行う体制を整える
- ② 平時における支え合いの推進～非常時の共助に繋がるよう、平常時の高齢者の見守りや生活支援など福祉的な支え合いも、地域防災力強化の過程において推進する
- ③ 組織・団体間のネットワーク強化～非常時及び平時の支え合いを推進するため、地域内の多様な団体が実践活動において連携・協働できる場づくりを行い、当委員会のプラットフォーム機能を強化する。

D

・事業の概要

【防災ワークショップ～図上訓練による訓練シミュレーション】 タイムライン訓練プランを作成し、避難行動に向けたシミュレーションを行った。 避難行動プランを防災自治課へ提出し、アドバイスを記入したものを各地区へかえし、訓練に備えた。

【避難行動訓練と振り返り】 井野地区全体での避難訓練～避難状況等の報告訓練を実施。

【振り返り】 訓練の必要性を再確認し、今後の訓練拡充に繋がった。

C

課題の解決度合（10段階の自己評価）

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

						○				
--	--	--	--	--	--	---	--	--	--	--

・上記評価の理由

自治区や市での訓練に参加しての振り返りを予定していたが、コロナ感染予防対策で計画通りに進められず、訓練参加ができなかった。が、井野地区のみではあるが全体での訓練が行えたことは大きな一歩となった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと（評価を10に近づけるために）

- ・避難訓練を継続させ、訓練での気づきを地域全体で共有し、避難行動・プランともに充実させていく。
- ・地区内の多様な団体組織のネットワーク強化をはかる。
- ・楽しく訓練に参加ができる工夫をこらす。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：今福地区まちづくり委員会

〔令和 2 年度採択分〕

令和 2 年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

活動拠点環境整備事業(仮設テントの整備)

事業費(予算額)： 256,230 円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 138,160 円)

P

・事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

平成 27 年度から取組みを開始した「もやい市」は、4 月から 12 月までの第 1 土曜日と第 3 土曜日に開催しているが、高齢者を中心とした多くの地区民に“出掛ける機会を与える”“憩いの場”の提供という大きな役割を果たしている。しかしながら「もやい市の拠点」である既存のテント 3 張りは、老朽化と不具合が生じ、設置や撤去は重労働で、会員の大きな負担となっているので、組立て収納が簡単な仮設テントを作成し設置した。これにより、会員の労力低減になり、もやい市の持続可能が見込まれる。

D

・事業の概要

もやい市の店舗として、設置した仮設テントを活用した。

C

課題の解決度合(10 段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

									○	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--

・上記評価の理由

張りテントと違い、設置や撤去の労力の軽減や時間の短縮となり、より運営に力を入れることができた。また、雨降りには、買い物時に濡れないので、お客さんにも喜ばれている。しかし、規模的にもう少し仮設テントの増設が必要と思われるので、解決度合を 9 とした。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を 10 に近づけるために)

もやい市は、地産地消の他に、高齢者の“憩いの場”としての大きな役割を果たしている。地区民の談笑の場を今後、もっと広げる必要があり、そのためには、仮設テントを将来的に増設したい。



事業報告書

(課題解決特別事業)

申請団体名：今福地区まちづくり委員会

〔令和2年度採択分〕

令和2年度浜田市まちづくり総合交付金 課題解決特別事業 事業報告書

事業名

活動拠点環境整備事業(照明器具の整備)

事業費(予算額)： 136,350 円(まちづくり総合交付金課題解決特別事業： 131,356 円)

P

事業の目的(解決を目指す課題)や見込まれる成果

今福ふれあい会館のステージの照明が不足しているため、文化サークルや教室の発表時に演舞が映えない状態であるため、出演者や地区民から大きな不満が出ていた。このような事由から、会館の多目的研修ホールのステージに係る照明器具を増設した。これにより、将来的に、モチベーションが上がり、“賑わいの創出”が見込まれる。

D

・事業の概要

演舞披露の発表時に、購入した照明器具を活用した。

※令和2年度の文化祭はコロナ禍の影響で展示のみだったため活用できず。

C

課題の解決度合(10段階の自己評価)

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

								○		
--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

・上記評価の理由

照明器具の増設により、ステージの後方まで明るくなり、より見ごたえのあるステージを演出できた。令和3年3月に無観客で行った“笑舞会”“フラダンス教室”“おしどり会”の演舞では、出演者から高評価を得た。

コロナ禍で多くのイベントが中止や規模が縮小されたため、あまり活用ができなかった。

A

事業の継続、発展に向けて今後取り組むこと(評価を10に近づけるために)

この事業の目的は、「ふれあい会館」を中心に、文化的行事や催し物が盛んな今福地区の“賑わいの創出”の持続である。コロナ禍が収束したら、催し物等が開催でき、出演者や地区民に満足してもらい、観客及び出演者よりが増えるように、まちづくり委員会や自治振興会と検証しながら、照明効果を高めて行きたい。また、WEBを利用して広く活動の様子を発信をしていきたい。

